

コロナの時間学

～ 新型コロナウイルスが人間と社会に対して与える時間的影響 ～

これはなに？

新型コロナウイルス感染症拡大に対して、研究として何かやってみたい。そう考えている方、この研究プロジェクトへ参加してみませんか。新型コロナウイルスの感染者は必ずしも多くない山口において、何が変化したのか、あるいは今後変化するのか、そして我々は何ができるのか、分野を限定せずに研究をする1年間のプロジェクトです。

だれが参加する？

山口大学に所属する研究者であれば、だれでも参加できます。新型コロナウイルスに関連する研究課題を自分で設定し、このプロジェクトに登録してください。研究成果はウェブサイトで公開します。少額ですが研究費の配分も行います。一人で行う研究でも複数人のグループ研究でも結構です。

どんな内容？

新型コロナウイルスが人間と社会に対して及ぼす影響に関する研究であれば、どのようなものでも結構です。ただし、単なる研究の寄せ集めとしないために「時間」というキーワードを含むこととします。ここでいう時間は、変化、記憶、速度、移動、空間に対比するものの・・・のように広くゆるくお考え下さい。

例えばどんな研究？

- ・ Stay Home や遠隔授業など、移動を制限する施策によって生活リズムがこれまでとは異なったものとなり、それが体内時計に影響を及ぼしている可能性がある。これを専門の質問紙などによって調査し、研究する。
- ・ 教育研究のオンライン化など空間的距離を確保する様々な試みが、日常生活の時間に及ぼす影響について調査し、研究する。
- ・ 新型コロナウイルスが存在する世界で我々はどのように生きればよいのか、長期的な観点で研究し、提言する。

メリットは？

分野・学部横断プロジェクトですから、他分野の研究に触れ、また自分の研究を他分野の人に知ってもらい、知的交流ができる機会となります。日本時間学会の年次大会や2022年に山口大学で開催が予定されている国際時間学会で、本研究プロジェクトの成果発表の場を設けることも検討中です。

コロナの時間学 プロジェクト実施要領

目的と目標

分野・学部を問わず、新型コロナウイルスに関連する研究を行います。現状を理解すること、そして新型コロナウイルスが存在する世界で我々はどのように生きればよいのか提言することを目指し、山口大学としてこの問題に取り組みます。「時間」がキーワードです。1年間の研究を行い、2021年11月に研究成果をまとめて公表することを目標とします。

研究課題の募集と予算配分

応募方法：研究課題と必要事項を別紙の応募用紙に記入し、メール添付で窓口にお送りください。応募締切後に内容に関する審査を行い、約1週間後に審査結果を通知します（深刻な問題がない限り採択する方針です）。

予算配分をご希望の方は関連する事項を応募用紙に記入してください。配分総額は今年度内に200万円、2021年度に100万円です。総額が限られているため、申し訳ありませんが配分される予算額は希望通りにはならず、応募数によって変化する見込みです。

メール送信先：sh076@yamaguchi-u.ac.jp（山口大学時間学研究所事務室）

応募締切：2020年10月19日（月）正午

実施内容と時期

時期	内容
2020年9月	プロジェクト開始。参加者・研究提案の募集を開始
10月	募集終了。研究計画を整理して公表、予算配分の決定
11月	研究開始シンポジウムを開催
11月～2021年10月	各課題の研究を実施、ワークショップを随時開催
11月	研究完了シンポジウムを開催
12月	成果をウェブサイトで公表

公表ウェブサイト

〔山口大学時間学研究所ホームページ〕 <http://www.rits.yamaguchi-u.ac.jp/>

問い合わせ・連絡先

〔山口大学時間学研究所〕 電話：083-933-5848、メール：sh076[@]yamaguchi-u.ac.jp

※送信するときは[@]を@に変更してください。